

KTK ひゅうまん 京都

No 559 2023年6月号

編集／京都障害児者の生活と権利を守る連絡会 〒603-8324 京都市北区北野紅梅町85 弥生マンション内
編集発行責任者／池添 素 電話 090-1444-0046 購読料 1部80円 年間購読料1,000円(送料実費)

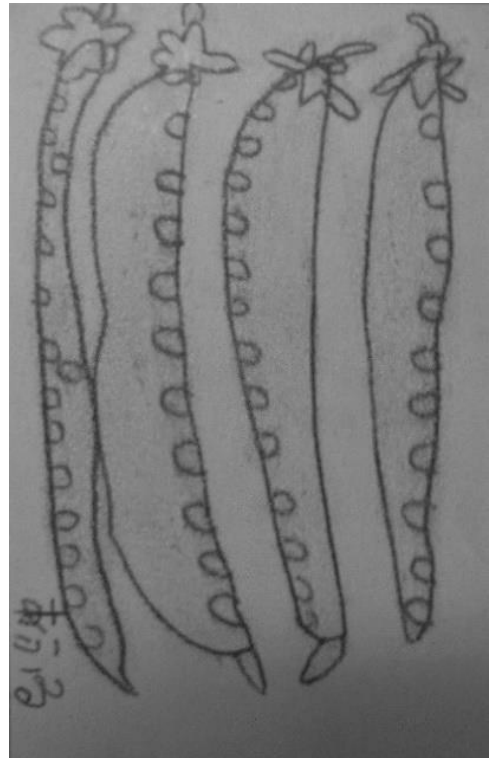
- P1 左大文字 あそび
- P2 常任委員会から 池添 素
- P3 一人暮らし始めます! 沖田 友子
- P4 血の染みついたバトシ 中村 暁
- P5 電動車いす「まんまる号」ドライバー日記 山本耕平
- P6 ジョニーの炸裂日記 ライスチョウジョナ
- P7 つれづれあらぐさ 中山 恵美子
- P8 2+2=詩 富士一文
- P9 365歩のマーチ 安藤 史郎
- P10 知っ得情報 松本 美津男

左大文字

▲岸田内閣は昨年12月、相手国のミサイル発射拠点をたたく「反撃能力」敵基地攻撃能力を明記した「安保」等3文書を閣議決定し、今後5年間で軍事費総額を43兆円とする方針を決めた。

その結果、わが国は米国、中国に次ぐ軍事大国になる。軍国日本の再来を目前に「異次元の大軍拡」であり、大増税必至である▲一方、少子化対策は児童手当の改善等に限定し、総額は3.5兆円台とか。その財源をめぐって、後期高齢者の医療保険料アップ分からの調達を決めている。これに加えて社会保険料の引上げを提案したが、世論の反発により決定は先送りされた▲少子化対策というなら、保育・教育費の無償化と従事者の増員と賃上げ、そして若者世代に広がっている非正規雇用の廃止に踏み込むべきであろう。より根本的な問題は、若者を子どもを産む道具としか見ない政権の認識にある。この程度の弥縫策を「異次元の少子化対策」とよく呼ぶものだとあきれ返る▲メディアでは少子化対策の不備を衝く報道はあるが、大軍拡方針を「聖域」とみなしてか批判を控え、政権への忖度を感じる。先日のG7サミット声明「広島ビジョン」の報道にも失望した。核兵器廃絶を理想として棚上げして、核抑止論に依拠するG7首脳を厳しく批判したのは、地元紙など一部に限られた。その結果が、サミット後の政権支持率9%アップ(毎日・読売調査)の原因だと思う。

(あそぶ)



「夏野菜2」
渡辺あひる

常任委員会から

〈総会無事終了〉

5月28日日曜日の午前中、約10名の参加で京障連2023年度総会を開催しました。課題は財政です。加盟団体も厳しい中で、財政を安定させていくためには、一口千円の個人会員を増やしていく必要があります。内容充実の『ひゅらまん京都』の購読とともに、周りの方にお勧めいただけると嬉しいです。

〈アートと音楽〉

初めて足を運びました。場所は堀川商店街にある堀川会議室。近づくときビートのきいた音楽が聞こえ、若者があふれています。いささか年齢の違う私は人波をかき分け中に入ると、『ひゅらまん京都』に連載中のライオス趙ジョナさんがキャンバスに向かってライブで製作中。参加者も自由に描けるコーナーもあり、若者も筆を振るう。そして音源はデスクジョッキーの方がノリノリで手を動かして音をつ

く。私にとっては初めてのライブイベント。これまではクラブで開催していたけれど、今回はコロナ禍を超えての活動再開だったので、皆さんの期待も大きかったと思います。私は久しぶりに坂本九さんの歌声にびっくり、この頃昔の歌が新鮮で若者に受けるそうです。楽しい時間をありがとうございました。

〈今年もやります〉

「津久井やまゆり園殺傷事件から7年―何が問題か、あなたならどうする」が開催されます。

「日本のラストチャンス」2030年に向けて、少子化は、我が国が直面する、最大の危機である、という文章から始まる戦

略。2022年に生まれた子どもは79万9728人。ピークから3分の1に減った子どもは、この国の少子化減少に歯止めがかからなかった結果。経済を支える人材が先細りとなる

と、国そのものの危機。「産めよ増やせよ」の掛け声は戦争へ逆行まっしぐら。これは何としても止めなくては。

〈国会はどうなっている〉

入管法の改悪は国際常識から

(事務局長 池添素)

一人暮らしが始めます！

沖田 友子（京障連代表委員）

重度の知的障害があり、車椅子の息子の一人暮らしは、梅雨真っ只中。暑い日が続くかと思えば、朝と日中の温度差があり、体温調整の難しい季節を迎えています。クーラーが入るようになります、車椅子に座っていると足が冷え、靴下の痕がくつきりつきます。また身体に汗をかいてかゆくてひっかいてしまう、肌トラブルが起きやすいので、支援していたく事業所に対応をお伝えしているところです。グループラインのおかげですぐ情報を共有することができ、「わかりました」と返事がくるとほっとします。本当にありがたいです。

20時から22時までには自ら布団に入り、朝7時頃には起きるリズムができていて、物音で目が覚めることはありますが、起きてしまうことはありません。排便を促す薬は何度も使用せず、二日に1回程度自然にありまます。これらの変化はどうして起こったのでしょうか。

グループホームの暮らしは今考えるところも制約がありますが、寝る部屋は個室でしたが、食事やリビングで他の利用者と一緒に世話人さんやヘルパーさんと食事する仲間のことが気になっていました。今は、ヘルパーさんと集中して食べるすることができます。入浴は順番が決まっ

ていました。今は食事の後に入ることが多いようですが、順番を気にすることなく自由に入ることができず、トイレも同様、誰かを気にすることはありません。自由な空間が保障されたことが一因であることは間違いなくと思います。

そして心の成長も大きい一因だと思えます。第二人はそれぞれ大学を卒業して実家を巣立ちました。好きなことする、独立していききました。そのため家族と離れ一人暮らしを始め、独立していききました。その様子を見て、自分もいつか独り立ちしたい、そう思っていたのかもしれない。私は週1回泊まりに行き、少しの時間、一緒にご飯を作ったりテレビを見たりして過ごすのですが、弟たちにするように自分のことを話すようになりました。離れて過ごすことになったから、普段の暮らしぶりを伝えるようになったのです。先日も「めっちゃ仕事

が忙しいんよ」と話すと、何と私の頭をなでくれたのです。そして次は私の手を取って「自分でよしよしとき」と労わってくれたのです。自分をほめなさい、と。そのとおり、自分のことをもっとほめなくっちゃ。こんなふうには私のことを見ていてくれてありがとう。「お互い頑張ってるやんなあ、また一週間頑張るね」そう、称えあえたことに喜びがあふれました。一人で暮らすということ、自立するということを実感しているところ。おきたともー

1960年生まれ。大学時代に障害児のボランティア活動に参加し、家族ぐるみの付き合いが始まる。後に障害者支援施設で働き、約15年間相談員として従事。フルタイムのため障害のある子どもが学童に入所するための運動に参加。現在、生活介護管理者。

血の染みついたバトン

中村 暁（医療ジャーナリスト）

⑩ 「そんなバカな」

マイナンバー法等改正で健康保険証が廃止される。そんなバカな。と思っっているうちに2023年6月2日、そんなバカなことは現実になってしまった。このままいけば来年の秋には健康保険証は廃止される。

これまで健康保険証は「全国民」に無条件に届けられていた。それには理由がある。

日本は国民皆保険制度の国である。誰もが公的な医療保険制度に加入し、「いつでも・どこでも・誰でもが保険証一枚で必要な医療を必要だけ保障される」。その基本になるのが市町村と都道府県が保険者である国民健康保険（国保）である。国民健康保険法第1条には「社会保

障及び国民保健の向上」が国保の目的だと書いている。つまり

国保は社会保障制度なのである。だからすべての人に対して普遍的に医療が保障されるのは当然なのである。そもそも同法の第5条（被保険者）には「都道府県の区域内に住所を有する者は」「国民健康保険の被保険者とする」とされている。国保は強制加入であり、「適用除外」（第6条）になる人たち（社会保険に加入する等）はいるが、基本的に住所のある市町村の被保険者だとはじめから決まっているのである。そして医療機関にかかるときには保険証を持っていきましようね、というのがルールになっている。だから保険証は無差別・無条件に交付されているのである。

しかし保険証が廃止されたことで、マイナンバーカードを保険証として使用することが基本になる。でもマイナンバーカードの取得もそれを保険証に「紐づけ」するのも任意である。自分で申請しなければ手元には届かない。それから今回の法改正では新たに「資格確認書」というものが作られることになった。要するに

マイナ保険証を持たない人これまでの保険証に代わって交付される「書類」のだが、これも本人の申請によって発行されるもので、さらに最大1年の有効期間だという（毎年申請しないといけない）。保険で医療を受けるための本人の「求め」（申請）が必要。これまで無条件に保険証を届けられたことと比べたら、大変な後退である。これはただの手続き問題ではない。国民皆保険といながら自分で申請する人・できる人にならなければ、医療を保障しない仕組みになってしまうのである。



大体、「資格確認書」を出すくらいなら、保険証を残しておく方がいいだけの話である。いつものごとく法案成立の目前になってメディアはようやくマイナンバーカードの不備を書い てくれた。さすがこれでは採決できないのではと考えた人もいただろうが、成立した。そしてこの度、本当に保険証がなくなってしまうことになった。そんなバカな。

電動車いす「まんまる」 ドライバー日記 ⑭

山本耕平

障害に応じた働き方（適正な労働量と独自の方法）が認められれば、仕事を続けることは可能ですが、障害や難病から生じる困難さゆえに、できないことがあったり、無理すればできるけれども無理をすると、さらに障害が重くなってしまうことを身をもって体験してきました。

今日、多くの大学では、障害をもつ教員が、教育や研究に携わり、素晴らしい成果をあげています。その多くでは、その教員と大学がともに教育や研究のしやすさを検討しています。そこには、障害を持ち働き続け、質の高い研究を行なうことを可能にする教訓をみることができ

ます。

今回の場合、大きい規模

ばならないのは学生たちです。私のストレスが減少されることにより、学生たちのストレスが増大し、学びの意欲が減退しては、私への配慮が学生の発達に逆効果

は、なかま達が使いやすい機会を購入する大きな出資もありました。

今ある枠組みや資源のなかで、難病や障害をもつ教員の働きやすさと学生の満足を共に保障することは、多くの困難があります。今、必要なことは、すべての人が持つ可能性を追求することを保障する為に、国も経営者も、何に出資するかではないでしょうか。

論じていることと、出校日を週2日にすると、出校日を週2日に

業評価」が入った封筒が手元に届きます。春学期の終わりに、私が担当する卒業必修科目「社会福祉援助技術論（ソーシャルワークの理論と方法）」のオンデマンド授業をどう受け止めているか、今からドキドキしています。

討する際に、その根幹に必要なのは、その場や集団が、人々の発達を保障する価値観をもつこととです。

今回の合理的配慮で。私自身を「と言ってきました。今では、

理事長を務める社会福祉法人一麦会（麦の郷）では、一貫して「労働に人を合わせるのではなく、人が労働に参加できる工夫

が可能になり、社会福祉実践者さらには研究者としての今後の可能性が保障されたことを確信

年商1億円を超えるソーシャルファームピネル（クリーニング）では、様々な失敗を繰り返しながら、なかま達が、生き生きと参加

を工夫してきました。その中で



ジヨニーの炸裂日記18

ライスチョウジョナ（イラストレーター）

6月10日、私と弟の主催するアートと音楽のイベント「petit（プチイ）」が開催され、無事に終了した。前回描いたように、私がアート面をそして弟が音楽面を担当し2018年から定期的に開催してきたイベントで、コロナ禍による休止期間を経てついに4年ぶりに対面での開催となった。かつては「CANVAS」という名前で、クラブハウスに行うオールナイトのイベントであったが、今回は長い休止からの復活という記念すべき回ということもあり、より幅広い層に参加していただきたいの思いで日中の堀川商店街の一角で行うこととなった。アートは大人から子供まで参加できる参加型の形式を取り、お客さん

の描いた絵がアーティストの絵に徐々に組み込まれていき一つの大きな絵が完成するという新しい試みを行い多くの参加者に好評をいただいた。音楽面でも、踊り甲斐のあるいわゆるダンスミュージックだけでなく誰もが知る往年の名曲までが流れて、年代問わず楽しんでいただけたのではないかと思つている。イベントの結果は成功どころじゃない。大成功である。ここで裏話。今だから言える話だが、実は私はイベントの2日前からイベント開始直後までかなり気分がピリついていた。その要因の一つは「集客」である。初めての場所、初めての時間帯、そして何より4年というブランクがどこまでかつてのお客さんを引き戻してくれるのか未知数であった。「誰も来ないまよいイベントが終わったらどうしよう」という不安に駆られ夜も眠れぬ始末（8時間寝ました）。しかし蓋を開けてみるとびっくり仰天。「こんな人の数どっから湧いて出てきたのか」とすら思うほど多くのお客さんに来てもらうことができた。弟から「お前はもつと人の善意を信じるよ」と言われたのだが、全くその通りである。子供から年配の方、障害のある方まで、当初期待していた通り多様な方々に来ていただいたのには感謝しかない。

コロナ禍前に定期的に開催していたクラブイベント「CANVAS」。そして今回、より多様な層に向けて開催した「petit」。それぞれにそれぞれの特徴や良さがあり、どつちが良いとは言えないが、今回は今まで味わったことのない多幸感を得ることができ、これ以上ない満足度でイベントを閉じることができた。4年ぶりに見ることができた。お客さんやイベントメンバー達の晴れやかな表情にも感慨深いものがあつた。今後も定期的に開催を予定しているの、また多くの人たちと楽しい時間を過ごせることを願っている。



ライスチョウジョナ

過剰自己貪食を伴うX連鎖性ミオパチー当事者。京都精華大学マンガ学部卒業。ギャグ漫画描き。Webや書籍などで漫画やイラストの仕事しながら、現在はNPO法人境を越えての公式Instagramに『ジヨニーの話』を連載中。ひゅうまん京都では、福祉の視点から表現の分野を考える文章を中心に書いている。

つれづれあらぐさ

あらぐさ福祉会は長岡京市にある社会福祉法人で、障害のある人たちの暮らしを支える事業を行っています。1986年に無認可の共同作業所を開所して以降、日中の通所から生活の場、ヘルパー事業所等、地域で暮らし続けるために必要なものを作り出してきました。今回の連載開始にあたり、「障害者の喜びと悲しみ、家族の喜びと苦悩、職員の働き甲斐と先が見えない苦悩…そういうことが浮き彫りになればと思います」とお話をいただきました。日々自分が経験していることや感じていることを通して、それぞれの一場面を綴れたらと思います。なお、内容については個人情報に配慮して構成しています。

場面④

「中山さん、あらぐさやめるって」
の釈明をする

3月末、来所したご家族から「中山さん、仕事やめるんですか」と突然の一言。あれ、そうやったっけな…いやいや、違うなあと、一瞬何のことか分からず面食らいました。ご家族の話によると、2023年度の職員配置のお知らせを見て、ご本人が「中山さんいなくなる」と言い続けているそうです。難しい顔をしながら、お知らせとにらめっこしているということでした。ご家族が「違うんちゃうの?」と返しても、「いや、やめるから」と頑なに言い張る姿に、ご家族も実はそうなの?!と思ったそうです。

配布されたお知らせには「役職の

任を解く」とあったので、ご本人は退職するものだと思った様子でした。そのことを説明すると、「せっかく続けてきたのに、もったいないと思った」とご家族。〃もったいない〃

めたのか、黙ってコクリとうなずいていました。ややこしくって、ごめんなさい。

という感覚は自分にはなかったもので、そんな風感じられるとは意外でした。また、ご家族はご自身の経験をふまえながら「やりたいことをやれる時にやれるのは幸せなこと」、「振り返ると、やってよかったと感ずる」と話されてきました。無認可の頃から無我夢中に働いてきた中で、「仕事しかしてこなかった」と感ずる時もありました。でも、きつとそれが自分のやりたいことだったのだと思います。

30代半ばから、9年間担ってきた法人の役職。求められる役割と組織のために働く意味を、考え続けました。資質・能力・覚悟：理想の上司や完璧な管理職には程遠いものですが、全うできなかった経験も働いていく中で意味づけし直していかれたらと思います。冒頭のご家族とは、作業所の頃からのお付き合いです。やめないことを伝えると、「親も子も一緒に見てもらって」「子ども大変やけど、親も大変やし」「昔の姿を知っている人がいて嬉しい」と言われていました。何より「本当にこの仕事大切やと思う」の言葉に、自分もまた支えられているのだと改めて気づきました。

中山 恵美子（あらぐさ福祉会）



2+2=詩

「いつかのハード」

遠い昔のいつかのここで、

食事を終えた恐竜が

ほっと一息吐き出した

満足そうな空気の音が、

渦を巻きまき消えてった

はるか未来のいつかのここで

働き終わったロボットが、

こもった空気を吐き出した

何でもなさ気な熱い空気が、

蒸気をまどって流れていった

時の流れのいつかのここで、

誰かか何かが息を漏らした

音も形もわからない呼吸は、

誰かに聞かれたかもわからないまま、

時の流れに埋もれて失せた

「風の独演会」

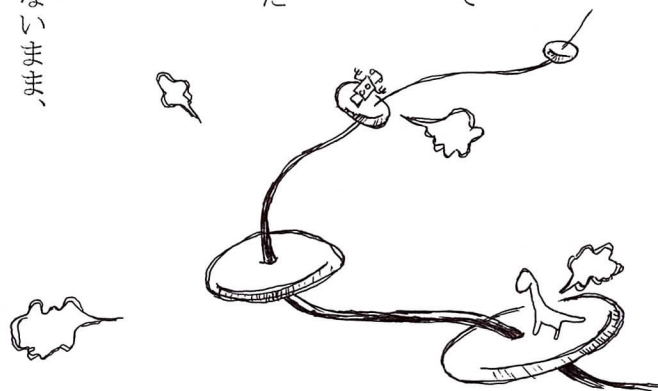
ぐるぐるぐるぐる

風が円を描く

それに釣られて落ち葉が回る

ぐるぐるぐるぐる

風が舞い踊る



煽られ砂も回り続ける

時にゆるゆる、時に激しく、

緩急つけた気ままなステップ

落ち葉も砂も巻き込んで

近づいた人も巻き込んで

あらゆるものをパートナーに

自分の息吹を伴奏代わりに

回る廻る、風のワルツ

「犬ばかの習性」

あばたもエクボと人は言う

とぼけた顔した犬を見た 見知らぬ僕にもとぼけた顔で、

頭を撫でたら尻尾を振って、ペロペロペロ舐めてくる

聞き分けよくて人懐こい、賢いかわいい犬を見た

キリリとしている犬を見た

近づく僕をじっと見て、

足を踏ん張り、歯をむき出し、

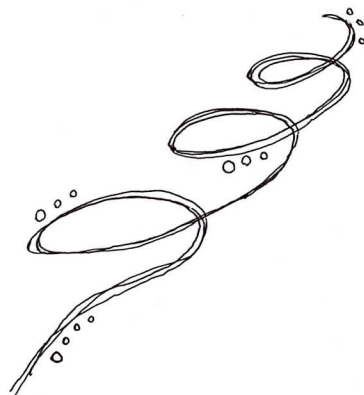
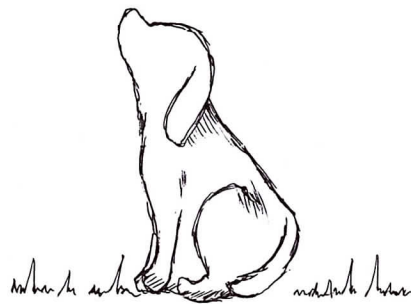
手を差し出したら激しく吠えた

知らないやつには懐かない

賢いかわいい犬を見た

あばたもエクボと人は言う

犬バカなんてそんなもの



365歩のマーチ



39 かんこんそーさい

最近、他者の視線が気になるようになってきたようです。泣くときにも今までだったら「わーん」と激しく泣いていたのに、悔しいっぱいに「くーん」と涙をこらえるように泣きます。そんな泣いている姿を見られるのもいやで、隣の部屋にかけていって声をひそめて泣いています。なにかをして怒られたときにも、しばらくしてゆいちくんの顔を見ようものなら「こつち見んといて」と両手で顔を隠します。小さなからだに、プライドがまつているゆいちくん、来月で4歳です。

※

ここ1、2か月で、親族のお通夜・葬式と結婚式が立て続けにありました。お通夜では、お坊さん

がお経をよみはじめると「ん？

なんだ？」といった感じで最初は（といつても体感では3分）座っているものの、徐々に雲行きが怪しくなってきた。父と母は気が気ではありませんが、こうなってしまうともうどうしようもありません。「まあ、しょうがないよな」という思い半分、他の子はちゃんと座っているのに」という思い半分。通夜が終わって、みんなで食事をしてしていると親戚の子も仲良くなつて、館内・控室でかくれんぼをしたり、持ってきたおもちゃで遊んだり、こんなとき一気に距離を縮める子どもはすごいなあ

と思いつつも、いつも以上に気を遣ってぐったりの父と母でした。家に帰って、「明日もお葬式でみ

んなに会うよ」と伝えると「ゆいちくん、ままんちや（まんまんちやん）きらいになつちやつた」。明日のことを考えると絶望的になったことは言うまでもありません。

結婚式ではリングボーイに指名されました。事前に、保育園でも先生が友達と一緒に練習してくれたようです。いざ本番になると、「こんなこと重大なことをぼくは頼まれていたのか」といった表情でなかなか歩き出しません。母と一緒に歩きますが、緊張ですがちがち。無事指輪を新郎新婦に渡すことができましたが、渡した瞬間泣き出してしまいました。結婚式後、ゆいちくんに指輪運びの話

をするると返事をしてくれません。思ったようにできなかった：その話ほしないでくれ：。ここに彼のプライドが見えます。披露宴では豪華なお子様ランチ、好きなモノだけ食べるとウロウロ。両家の席を往復してデジカメでみんなを撮って回ったり、挙句の果て

には新婦の姪っ子にストーリーカーのように付きまといました。みんなを盛り上げてくれていました。

ゆいちくんのウロウロやおふざけにはいつもハラハラさせられますが、時にはお調子者に救われることもあるんだなど、親の都合で止めたり止めなかったりする関わりを反省しました。来月は祇園祭。親戚で屋台を出しており、ゆいちくんもことあるごとに「アシタ、ギオンマツリ？」と期待大。冠婚葬祭盛りだくさんの日々です。

あんどろろろ

京都市在住。大阪の寝屋川市にある児童発達支援センターで発達相談員として働いています。子育てを通して、パートナーや自分の価値観と向き合いながら

四苦八苦。ひゆうまん京都の編集もお手伝いさせてもらっています。

ありがとうございます

会費 浅野孝子・大西洋子・芦田賀寿夫・川井祐次・桐澤裕子・林勝三・安田隆・谷口敏・松本慎一・京都府生活協同組合連合会・小宮山繫・是沢朗・佐々木正祥・竹井登志郎・西山治・竹内三紀子・クリエイツかもがわ田島

分担金 保健福祉の会・京都民主医療機関連合会・京都市職労民生支部
京都府聴覚障害者協会・福祉保育労京都地方本部 (敬称略 2023. 6. 10)

1992年6月5日第3種郵便認可(毎月1回25日発行)
2023年6月25日発行 KTK通巻5384号

知っ得情報

障害者を対象とした歯科診療施設

代表委員 松本 美津男

京都府歯科医師会が一般の歯科医院では治療を受けにくい障害者などを対象にした診療所を2カ所ですが設置しています。事前に電話で予約をとり、健康保険証・歯ブラシなどを持参のうえ来院を、とのことです。

<中央診療所>

診療所名 一般社団法人 京都府歯科医師会 京都歯科サービスセンター中央診療所
所在地 京都市中京区西ノ京東梅尾町1番地
電話番号 075 (812) 8493 FAX 075 (812) 8815
受付時間 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

<北部診療所>

診療所名 一般社団法人 京都府歯科医師会 京都歯科サービスセンター北部診療所
所在地 福知山市問屋町63の1(福知山地方卸売市場 管理棟内)
電話番号 0773 (24) 8020 FAX 0773 (24) 9020
受付時間 水曜日・木曜日 午後1時～午後4時

※全身麻酔など薬物療法を用いなければ診療ができない人及びそれを希望される人には居住地により、中央診療所(京都市)、京丹後市立久美浜病院等を紹介。

T602 8144

発行所 京都市上京区丸太町通黒門東入藁屋町536-1 元待賢小学校1階 京都難病連
京都障害者団体定期刊行物協会 発行人 高谷修(購読料は会費を含む)

あなたもぜひ 仲間に



サロン・サークル・地域活動展開中
生活支援スタッフ(資格不要)募集中
介護職員(資格要)募集中

ひとりぼっちの高齢者をなくそう
元気な高齢者はもっと元気に

「よろず相談」承ります(随時)



あなたも支える存在に
京都市北区紫野東野町1-5
電話075-432-3636

命の平等をかかげ、
無差別平等の医療と
福祉の実現をめざす

働くひとびとの医療機関です

看護師・薬剤師・医師や医療技術者を

目指す方をご紹介ください



京都民主医療機関連合会

〒615-0004 京都市右京区西院下花田町21-3 春日ビル4階

TEL 075-314-5011(代) FAX 075-314-5017

Home Page <http://www.kyoto-min-iren.org>

e-mail: info@kyoto-min-iren.org